

## 《教育長メッセージ 第54号》

### 『理想の学校』

これはあくまでも私見であります。

学校は、子どもたちや、大人たちが成長するための場です。そのための学びの場です。ですので、よりよい学びの場であること、そのための環境が整えられている学校が理想の学校であると言えます。

それでは、どんな環境が整えられていることが大切なのでしょうか。

日本中のどの学校もそれぞれの実態や環境に合わせて、よりよい学びの場であることを大前提に、やはり、あくまで私見として、主に、子どものまわりの多くの大人の役割という視点から、私の考えを述べさせていただきます。

#### ○教職員

教育のプロとして学びの計画を立て、それを実践するのが教職員の職務です。

目の前の子どもたちの実態に応じて、その学校がめざす姿から、学校の目標を設定し、具体的な年間の学校教育計画を策定し、計画を修正しながら実践する力が教職員、教職員集団に求められます。

また、計画の策定、計画の実践、計画の見直しを充分に話し合っ、協調して行うチームワークが必要となります。

そして、学校の目標と学校教育計画を保護者や地域にしていねいに説明し、ともに学校づくりを進めていくということから、積極的に学校以外の多くの人と関わることができる教職員であることが大事です。

併せて、教職員ひとりひとりの最も大切な資質として、命を預かるという職務上、鋭く深い人権感覚を身につける必要があります。

これらは、今そこになければならないということではなく、教職員も学校も日々よりよく変容しますので、そのような方向に向かって、教職員が日々、努力しているということが重要となります。

#### ○保護者や地域の方々

子どもたちの生活のベースは、家庭と地域にあります。人の一生を考えると学校生活は、限られた期間でしかありません。そう考えると、家庭や地域の教育が基本となります。家庭や地域の教育は、学校教育のような計画的な実践というより、保護者や地域の方々の子どもたちへのかかり方だと私は思っています。

家庭や地域では、子どもたちと日常的にかかわる中で、大人の経験が



ら、自分たちが個人として社会人として、よりよい生き方を見せること、話し伝えることだと、私は考えるのです。

もちろん、説教をするということではなく、ともに生活する中で、いっしょけんめいに働く姿や、家族や近所の人、地域の方々と協力して楽しく暮らす姿などで、身を持って示すということです。

また、学校に対しては、学校にすべてお任せということではなく、その計画はプロである教職員に委ねるとしても、学校の目標や計画をよく知り、その計画が効果的に行われるように支援していただきたいと思うのです。

子どもを中心に考えると、家庭、地域、学校は、それぞれ別々に存在しているのではなく、子どもの中では門や塀もなく、つながっているからです。

保護者、地域の方々、教職員は、子どもの目線からすると、よくつながって、それぞれに支え合って、それぞれの役割をしっかりと果たすことが、うれしいことなのではないかと、私は思うのです。

#### ○学校

これまでのことから、建物としての、施設としての学校はどうあるべきなのでしょう。

法的には、海老名市立の小中学校は、市が設置して、教育委員会と学校（教職員）が管理しています。

勘違いしてはならないのは、学校は、管理している教育委員会や学校（教職員）のものではないということです。市民みんなのものなのです。

だから、学校は、子どもの学びの場としてそこにあるのですが、大人の学びの場でもあるべきであり、学校のある地域の方々が集う場であるべきだと私は考えています。

そして、学校が、すべての人（赤ちゃんからお年寄りまで）の学びの場であり、成長のステージになることが私の理想なのです。

「理想の学校」 学校がどうあるべきか、私としては多くの人と話し合いたいと思うのです。

次回は、「支え合う仕組み」について、私の考えを述べてみたいと思います。